

# FC 岐阜の発展における一考察

## The study of development about FC Gifu

1K05B055

指導教員 主査 リー・トンプソン先生

小野木 紘二

副査 石井昌幸先生

### 1、研究動機

まず今回の論文を作成にあたって、「FC 岐阜」をテーマとした理由について述べる。そもそも私が FC 岐阜に興味を持ったきっかけは、単純に私の生まれ育った場所である岐阜県にプロを目指すサッカーチームが誕生したことにあつた。私はこの出来事がうれしかった。なぜなら、東京に来てから岐阜のことを話そうにも、スポーツも文化も特産物も全国に誇れるようなものが何もないなという思いを常に感じてきたからだ。また、私自身、少年時代からサッカーに親しんできて FC 岐阜の中に小学校時代、対戦したことのある選手がいたことも私の喜びを大きいものにする一因になった。そして今回テーマとして取り上げる「FC 岐阜」は、自らのルーツに対し引け目を感じがちな岐阜県民の意識を払拭する存在であると私は考えた。FC 岐阜がどうしたらサッカークラブとして上手いのか、どうしたら岐阜県民が誇りを持ち、子供たちに夢を与えられるようなクラブになるのかということを探りたい。

### 2、研究方法

分析の手がかりとして、まずは研究対象である FC 岐阜の歴史の流れに沿って年代順に追っていく。

歴史が浅く研究や資料が少ないため、FC 岐阜の誕生から現在までを流れとして見る事が出来る資料が少なかった。そのため確かな情報を一つずつ繋げて、研究対象である FC 岐阜の歴史年表を作ることにした。また FC 岐阜をザスパ草津、アルビレックス新潟の両クラブと主に、クラブの運

営戦略、メディア戦略を中心に比較する。ザスパ草津は小さな地方都市でありながらチーム発足からわずか3年で J 昇格したチーム、アルビレックス新潟は J2を長年経験しながら J 屈指の観客動員数を誇る地方都市のチームということで興味を持ち比較対象に選んだ。この比較によって FC 岐阜を客観視し、FC 岐阜の良い面や悪い面、抱えている問題の解決の糸口を探し出す。またクラブ運営、メディア戦略に関して FC 岐阜でも活用できる政策が無いか、FC 岐阜の状況に照らし合わせて考えてみる。

### 3、比較、分析

FC 岐阜の比較対象としたアルビレックス新潟とザスパ草津は、共にとてもユニークかつ実用的な経営戦略、メディア戦略を多く持っていた。アルビレックス新潟、ザスパ草津ともにご当地の色があり FC 岐阜も自らの特色について今一度考える必要性を感じた。FC 岐阜に応用できそうな戦略がいくつかあり、その中でも回覧板に試合の無料招待券を入れて一度、スタジアムに足を運んでもらおうというアルビレックスの試みは観客動員数で悩む FC 岐阜にすぐにでも実行してもらいたいものだった。また、ユニクロとユニフォームのスポンサー契約を結び、ユニクロの「安価だがものは悪くない」「庶民的」といったブランドイメージを自らのクラブに取り入れたザスパ草津のメディア戦略には感心した。

### 4、考察

ここで私が結論として述べたいことは、私がつ

まり岐阜県民が FC 岐阜に求めるものであった。一点目に FC 岐阜は(以下同型省略)「地域に根ざした組織(クラブ)である」こと、二点目に「J の舞台でチームが存続し続ける」こと、三点目が「チームがサッカークラブとして結果を残す」ことである。この三点が FC 岐阜に課されている問題であり、この問題を改善していくために効果的なメディア戦略や運営戦略が必要なのである。FC 岐阜はまだ若いクラブであるし他のクラブの良い点をどんどん

吸収していけばよい。また、時には他のクラブとの比較によって自らの改善点を洗い出していけばよい。

FC 岐阜にとって多く見習う点があったアルビレックス新潟やザスパ草津にも、収入源の頭打ちや選手と町人の距離感など現行の戦略に対して課題が次から次へと出てきている。今回の論文を通して完璧なクラブ運営はないとわかった。